

La Terra

Dance troupe Earth-Be
the 7th Performance

われわれは どこへ行くのか

このダンス作品は、腐りきった文明に反逆し
野生と野蛮を追い求めた男・ゴーギャンの
色鮮やかな物語である。

19世紀末、パリ万博が開催され、エッフェル塔の建設にわくパリ。

物質文明が支配するヨーロッパを抜け出した画家ポール・ゴーギャンは原始を求め
フランス領タヒチへ。しかし、そこはすでに植民地化され、文明化されつつあり
彼にとって楽園そのものではなかった。「文明」と「原始」、「西洋」と「野性」。
ゴーギャンの芸術は彼の中に棲むこうした二つの対立が生み出したもの。

ゴーギャン49歳。さまざまな苦難と失意、そして最愛の娘アリーヌ・19歳の死の
知らせが彼を打ちのめした。まるで遺言のように、彼は人生の集大成として、
大作《我々はどこから来たのか、我々は何者か、我々はどこへ行くのか》を描き上げる。
「この広大無辺な創造の中で、人間とは何か」と自らに問いかけた。

資本は巨大化、金がすべてを動かし、ますます広がる貧富の差。

100年前のゴーギャンの時代と現代、よく似ている。エネルギーは石炭から原子力に。
そして2011年3月11日の大地震、津波さらに原発事故。いま地球は計り知れない
不安にさらされている。ますます生き難く、複雑化する現代に生きる私たちは、
彼の「われわれはどこへ行くのか」の問いに何とこたえるのだろうか。

予想以上のうれしい反響をいただいた初演から2年。

前回同様、舞台美術は椿作家・加茂孝子さん。新たに手漉き和紙の衣装も手がける。
そして今回はバイオリン奏者・ポール・ラザーさんをゲストに迎えての新演出。
ゴーギャンの生きざまから感じたすべてを **ダンス**一人間の肉体で表現してみたい。
この地球 **La Terra** で繰り広げられてきた「死と再生」の物語として。

2012年6月2日(土) 14:00開演 / 18:00開演

2012年6月3日(日) 13:00開演

※両日とも開場は開演30分前

彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

JR埼京線 与野本町駅下車 西口より徒歩7分
埼玉県さいたま市中央区上峰3-15-1
TEL.048-858-5500

料金 前売 2,500円 / 当日 3,000円
(全席自由)

チケット取扱・問い合わせ

Earth-Be事務局

(TEL) 042-973-1484(石橋)

(Mail) info@earth-be.com

(HP) www.earth-be.com

彩の国さいたま芸術劇場(窓口のみ)

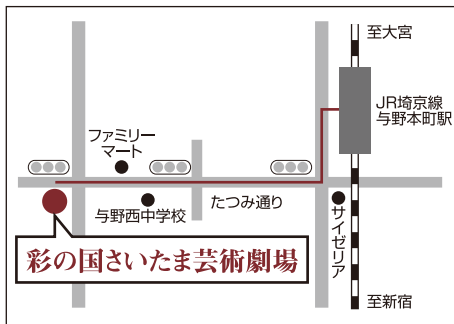


photo by Tatsuya Atarashi

●出演：川合ロン(ゴーギャン)

赤沼寛明 麻生朋子 新 舞美 新 愛美 雨間幸子
雨間弓奈 石川千恵 上田遥菜 金澤愛子 木村晃子
木村莉紗 小林みゆき 齋藤 萌 佐久間健太郎
佐竹啓之 佐藤麻希 佐藤結生 椎野 純 嶋崎千束
島田さやか 嶋田美由紀 島津晃毅 白石希絵
真藤尚子 鈴木綾乃 鈴木はるな 鈴木美弥子
関根久子 高田真理子 滝沢真理 田村育子
利根川江理子 長島実咲 野木孝輔 藤島由香
藤原由里奈 榎本沙織 松村 友 三浦奈綾
森井美奈子 森 敬統 山口紗代 山本 聖
吉澤ゆかり 吉田涼花 吉田聖実



ゲスト出演・作曲・演奏(バイオリン)Paul Lazar

フランス出身。2000年～2004年ブロードウェイミュージカル
CHICAGO、ピナバウシュ振り付けの作品などで演奏。様々なジャンルで
作曲、編集を担当する。2008年～2011年シルクドソレイユ東京「ZED
」でバイオリニストとして活躍。現在、渋谷セルリアンタワーJ's Bratにて
"Paul Lazar「Music Road」"ライブを皮切りに様々なミュージシャンや
アーティスト達とコラボレーションするなど活躍の場を広げている。

Dance troupe Earth-Be

1996年、埼玉県飯能市を本拠地に結成。自然、宇宙、人間
をテーマにダンス作品を創作、発表。学生、会社員、プロを目
指すダンサーなど幅広いメンバーで構成される。振付家・石
橋寿恵子と共にダンス表現の可能性を追求している。主な
作品「オオタカ伝説」「The LEAF いのちのロンド」「H₂O
地球と水の精霊たちへ」「いそづぶ2009」

STAFF

構成・演出・振付：石橋寿恵子 作曲・演奏：ポール・ラザー 舞台美術：加茂孝子(和紙造形) 振付：川合ロン 齋藤萌 演出助手：佐竹啓之
演出協力：田中 暢 照明：三輪徹朗 音響：佐藤 宙 舞台監督：原 有人 宣伝美術：パーマークデザイン 制作：Earth-Be